

●授業プログラム一覧（全16時間）※1単位時間=45分

テーマ	コンテンツ	段階	時間	キーワード	具体的内容	補足・体験型授業
導入（ふれる）	①防災教育への動機付け	導入	2	学校内の防災設備	学校内の防災設備を探し、防災への関心を高める。その後地震とは何か、起こりうる可能性について学ぶ。	A. 防災館見学 B. 起震車体験
	②学校での避難行動	導入	1	学校内での避難行動	学校内で被災した場合の避難行動を実践しながら学ぶ。	
自助（つかむ）	③自宅での避難行動	導入	1	様々な状況での避難行動	ママと優太になった気持ちで家の中で被災した際の避難行動を学ぶ。	C. 防災マップ作成
	④避難行動の順序	強化	1	避難行動の順序	自宅で被災した場合にどのような順序で行動すればいいのかを、実践しながら学ぶ。	
	⑤避難場所・避難経路	強化	1	避難場所 避難経路	避難経路をクイズ形式で学んでいく。	
	⑥緊急地震速報	強化	1	緊急地震速報	もしも緊急地震速報が放送された場合、どのような対応をすればいいのかを学ぶ。	
共助・事前準備（ひろげる）	⑦家族会議・171	強化	1	171 家族会議	家族会議の必要性と、家族と防災を学ぶ機会を作る。	D. 防災袋作成 E. バケツリレー
	⑧自宅危険度チェック	強化	1	室内の安全性を高める	自宅の一室の間取りを簡単に書いてきてもらい、その部屋の危険な箇所を確認した、どのようにすれば安全になるか改善策を考える。	
	⑨防災袋	強化	1	防災袋	家族のために必要なものを自分で考える。	
共助（ひろげる）	⑩応急手当・消火器	強化	3	止血法・消火器 地域の防災体制	消防署の方にお話を伺ったあと、止血法と消火器の使い方を学ぶ。	
まとめる	⑪家族の防災新聞	応用	3		今まで学んできたことを新聞にして、学校で発表後、家に持ち帰ってもらう。家族に防災への関心を持ってもらう。	

●プログラム全体の流れのイメージ

テーマ	学習活動	学習のねらい
ふれる (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 地震に対する関心を持たせるために、学校内の身近な防災設備について考える。 授業中以外での被災を想定して、関心をわかせる。 	防災に対して関心を持たせ、自ら学ぶ意欲を作る。
つかむ (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> イラストを見ながら、自宅で母親と被災してからの流れを学ぶ。 避難の順序について学び、家族に伝えたいと思う意欲を育てる。 緊急地震速報について学び、速報が発信された際に適切な行動ができるようにする。 	家族と共に地震を生き抜いていく知識と、伝えたい意欲を作る。
ひろげる (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> 家族会議・防災袋を通して、家族と話し合い防災の知識を家族に伝えようとする意欲を育てる。 自宅の間取りの改善策を考えることで、自らが家族を守るために役立っているんだという誇りと自信を育てる。 消防署の方と交流することで、地域の防災体制に関心を持つ。 	事前準備の知識を学び、家族のために役立ちたいという意欲を作る。
まとめる (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 今まで学んできたことを、新聞にして家族と情報を共有する。 	家族に伝える方法を自ら考える。

